

1994年 大会記録

国際

◇ヤリギン国際大会=男子フリースタイル(1月21~22日、ロシア・クラスノヤルスク)

▼48kg級 佐伯豊(日大) = 三失、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 二失、勝目力也(山梨学院大) = 二失、▼57kg級 奥山恵二(ユニデン) = 二失、▼62kg級 矢山裕明(日体大) = 二失、▼68kg級 小柴健二(日体大) = 二失、勝龍三郎(香川県スポーツ振興財団) = 三失、▼74kg級 小野瀬哲也(山梨学院大) = 二失、▼82kg級 横山秀和(日体大) = 二失、▼90kg級 藤田和之(新日本プロレス職) = 二失、▼100kg級 浅沼俊幸(自衛隊) = 二失、▼130kg級 小幡弘之(警視庁) = 二失

◇ヤシャ・ドク国際大会=男子フリースタイル(1月28~29日、トルコ・イスタンブール)

▼48kg級 佐伯豊(日大) = 4位、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 5位、勝目力也(山梨学院大) = 10位、▼57kg級 奥山恵二(ユニデン) = 7位、▼62kg級 矢山裕明(日体大) = 4位、▼68kg級 小柴健二(日体大) = 10位、勝龍三郎(香川県スポーツ振興財団) = 4位、▼74kg級 小野瀬哲也(山梨学院大) = 二失、▼82kg級 横山秀和(日体大) = 6位、▼90kg級 藤田和之(新日本プロレス職) = 二失、▼100kg級 浅沼俊幸(自衛隊) = 5位、▼130kg級 小幡弘之(警視庁) = 4位

◇マラル・カップ=男子グレコローマン(1月28~29日、スウェーデン・バステラス)

▼48kg級 佐々木昌常(自衛隊) = 4位、▼52kg級 内浩二(自衛隊) = 7位、▼57kg級 西見健吉(自衛隊) = 4位、▼62kg級 栗本秀樹(日泉化学) = 8位、▼68kg級 三宅靖志(東海商船) = 4位、▼74kg級 片山貴光(日体大) = 5位、▼82kg級 渡部秀隆(自衛隊) = 8位、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 9位、▼100kg級 野々村孝(香川県スポーツ振興財団) = 8位、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 4位

◇ファジール国際大会(2月4~7日、イラン・テヘラン)

《男子フリースタイル》▼48kg級 佐伯豊(日大) = 5位、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊) = 4位、勝目力也(山梨学院大) = 8位、▼57kg級 奥山恵二(ユニデン) = 10位、▼62kg級 矢山裕明(日体大) = 14位、▼68kg級 小柴健二(日体大) = 16位、勝龍三郎(香川県スポーツ振興財団) = 3位、▼74kg級 小野瀬哲也(山梨学院大) = 12位、▼82kg級 横山秀和(日体大) = 10位、▼90kg級 藤田和之(新日本プロレス職) = 12位、▼100kg級

級 浅沼俊幸（自衛隊）＝5位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝5位

《男子グレコローマン》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）＝8位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）＝5位、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）＝3位、▼62kg級 栗本秀樹（日泉化学）＝5位、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝5位、▼74kg級 片山貴光（日体大）＝3位、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）＝4位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝4位、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）＝7位、▼130kg級 鈴木賢一（読売千葉広告社）＝5位

◇アジア・オセアニア選手権＝男子フリースタイル（2月7～9日、インドネシア・スラバヤ）

▼48kg級 那須浩和（日大）＝3位、▼52kg級＝出場なし、▼57kg級 中野秀紀（流山市役所）＝3位、▼62kg級 岩下充明（警視庁）＝3位、▼68kg級 天谷満博（早大）＝2位、▼74kg級 長谷川正成（藤代町役場）＝7位、▼82kg級 内藤幸悦（山梨学院大）＝3位、▼90kg級＝出場なし、▼100kg級 水橋徹（千葉・大瀬中教）、▼130kg級 大川祐一（拓大）＝優勝

◇ホーザン国際大会＝男子グレコローマン（3月12～13日、ハンガリー・ブダペスト）

▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）＝2位、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）＝3位、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）＝三失、▼62kg級 栗本秀樹（日泉化学）＝二失、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝二失、▼74kg級 片山貴光（日体大）＝三失、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）＝二失、▼90kg級 吉田幸司（日体大）＝二失、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）＝二失、▼130kg級 鈴木賢一（読売千葉広告社）＝二失

◇アクトポリス国際大会＝男子グレコローマン（3月19～20日、ギリシャ・アテネ）

▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）＝3位、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）＝4位、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）＝5位、▼62kg級 栗本秀樹（日泉化学）＝二失、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）＝3位、▼74kg級 片山貴光（日体大）＝棄権、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）＝二失、▼90kg級 吉田幸司（日体大）＝二失、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）＝3位、▼130kg級 鈴木賢一（読売千葉広告社）＝6位

◇ワールドカップ＝男子フリースタイル（3月24～25日、カナダ・エドモントン）

6位（5敗）

1回戦 日本● [2-8] ○カナダ

2回戦 日本● [0-10] ○イラン

3回戦 日本● [2-8] ○トルコ

4回戦 日本● [0-10] ○日本

5回戦 日本● [2-8] ○ロシア

《個人順位》▼48kg級 佐伯豊 (日大) = 4位、▼52kg級 山口讓司 (国士舘大) = 6位、▼57kg級 奥山恵二 (ユニデン) = 3位、▼62kg級 和田貴広 (国士舘大) = 5位、▼68kg級 小柴健二 (日体大) = 5位、▼74kg級 小野瀬哲也 (山梨学院大) = 6位、▼82kg級 横山秀和 (日体大) = 6位、▼90kg級 藤田和之 (新日本プロレス職) = 6位、▼100kg級 浅沼俊幸 (自衛隊) = 6位、▼130kg級 小幡弘之 (警視庁) = 6位

◇US国際トーナメント=男子フリースタイル (5月14~15日、米国・ティネク)

▼48kg級 若松正 (ヤマサン) = 3位、佐藤謙二 (福島・田島中教) = 4位、▼52kg級 下村保伸 (福島・田島高教) = 8位、▼57kg級 入江格 (福島・平商高教)、石嶋勇次 (総合警備保障) = 5位、阿部三子郎 (NYAC) = 4位、▼62kg級 和田貴広 (国士舘大助) = 優勝、▼68kg級 吉本収 (ヤマサン) = 3位、勝龍三郎 (総合警備保障) = 7位、▼90kg級 和田敏行 (福島県協会) = 5位

◇東アジア国際トーナメント (5月22~23日、中国・蕭山)

《男子フリースタイル》▼57kg級 奥山恵二 (ユニデン) = 優勝、▼62kg級 和田貴広 (国士舘大助) = 優勝、▼68kg級 小柴健二 (新日本プロレス職) = 優勝、▼82kg級 横山秀和 (日体大助) = 3位、▼130kg級 小幡弘之 (警視庁)

《男子グレコローマン》▼48kg級 嘉戸洋 (国士舘大) = 優勝、▼52kg級 内浩二 (自衛隊) = 優勝、▼57kg級 西見健吉 (自衛隊) = 4位、▼62kg級 栗本秀樹 (日泉化学) = 棄権、▼68kg級 三宅靖志 (東海商船) = 優勝、▼74kg級 片山貴光 (自衛隊) = 2位、▼82kg級 渡部秀隆 (自衛隊) = 3位、▼100kg級 野々村孝 (香川・多度津工高教) = 4位、▼130kg級 鈴木賢一 (読売千葉広告社) = 一棄

◇世界カデット選手権 (6月24~30日、米国・フランクフォート)

《男子フリースタイル》▼40kg級 松永共広 (静岡・焼津中) = 二失、▼43kg級 鴻巣伸彦 (岐阜・松倉中) = 二失、▼47kg級 足立竜一 (愛知・尾西三中) = 二失、▼51kg級 野口勝 (鹿児島・鹿屋中) = 5位、▼55kg級 小野田純 (静岡・小川中) = 三失、▼60kg級 高塚慎吾 (大阪・吹田一) = 二失、▼65kg級 池田秀治 (愛媛・久米中) = 二失、▼70kg級 山口亮 (愛媛・久米中) = 二失、▼76kg級 吉田栄利 (三重・一志中) = 三失、▼83kg級 松田卓也 (愛媛・久米中) = 二失、▼95kg級 武尾雅樹 (青森・三条中) = 二失

《男子グレコローマン》▼40kg級 谷口勝信 (三重・一志中) = 二失、▼43kg級 水口

貴之(岐阜・マイスポーツ) = 二失、▼47kg 級 裕英博(大阪・近大付中) = 二失、▼51kg 級 = 出場なし、▼55kg 級 平隆士(大阪・近大付高) = 二失、▼60kg 級 山口直樹(三重・四日市四郷高) = 二失、▼65kg 級 森田和慎(大阪・近大付高) = 二失、▼70kg 級 = 出場なし、▼76kg 級 太田竜次(大阪・近大付高) = 二失、▼83kg 級 岡田直樹(大阪・同志社香里高) = 二失、▼95kg 級 矢野通(東京・京北高) = 二失

◇グッドウィル大会 = 男子フリースタイル(7月29~31日、ロシア・セントペテルブルグ)

グ)

▼57kg 級 花田秀実(自衛隊) = 6位、▼68kg 級 勝龍三郎(総合警備保障) = 7位、▼90kg 級 伊藤敦(京都府体協) = 7位

◇世界選手権 = 女子(8月6~7日、ブルガリア・ソフィア)

▼44kg 級 吉村祥子(スポーツ東急) = 優勝、▼47kg 級 上林美穂(東洋大) = 優勝、▼50kg 級 山本美憂(日体パンサーズ) = 優勝、▼53kg 級 川崎明美(自衛隊) = 優勝、▼57kg 級 三田寺由香(スポーツ東急) = 4位、▼61kg 級 黒川真由美(自衛隊) = 4位、▼65kg 級 浦野弥生(京樽) = 優勝、▼70kg 級 宮崎未樹子(住友海上火災) = 3位、▼75kg 級 船越光子(ユニマットコーポレーション) = 優勝

◇世界ジュニア選手権(8月12~21日、ハンガリー・ブダペスト)

《男子フリースタイル》▼46kg 級 新保道男(茨城・霞ヶ浦高) = 二失、▼50kg 級 森田武士(栃木・足利工大付高) = 6位、▼54kg 級 福田雅彦(神奈川・日大藤沢高) = 6位、▼58kg 級 鎌田卓也(東農大) = 8位、▼63kg 級 水井雅史(東京・京北高) = 7位、▼68kg 級 市川敏之(山梨学院大) = 10位、▼74kg 級 野寺隆志(東京・京北高) = 三失、▼81kg 級 土居克也(茨城・霞ヶ浦高) = 二失、▼88kg 級 今村雄介(群馬・関東学園高) = 棄権、▼115kg 級 早坂雅和(山形・山形商高) = 二失

《男子グレコローマン》▼46kg 級 中尾新二(奈良・添上高) = 二失、▼50kg 級 吉田誠治(神奈川・向上高) = 三失、▼54kg 級 豊田雅俊(徳島・穴吹高) = 二失、▼58kg 級 竹花良二(長野・上田西高) = 二失、▼63kg 級 飯塚幸宏(静岡・沼津学園高) = 二失、▼68kg 級 倉本忠(日体大) = 二失、▼74kg 級 中山智治(岡山・倉敷高) = 二失、▼81kg 級 小椋健(福島・田島高) = 二失、▼88kg 級 野口雅史(静岡・沼津学園高) = 9位、▼115kg 級 岩崎智郁(徳山大) = 二失

◇世界選手権 = 男子フリースタイル(8月25~28日、トルコ・イスタンブール)

▼48kg 級 佐伯豊(日大) = 8位、▼52kg 級 笹山秀雄(自衛隊) = 二失、▼57kg 級 花田秀実(自衛隊) = 4位、▼62kg 級 和田貴広(国士舘大助) = 三失、▼68kg 級 勝龍三

郎（総合警備保障）＝8位、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）＝6位、▼82kg級
横山秀和（日体大）＝二失、▼90kg級 伊藤敦（京都府体協）＝二失、▼100kg級 浅沼
俊幸（自衛隊）＝二失、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝6位

◇エスポアール・イラン国際大会＝男子フリースタイル（9月7～8日、イラン・サリ

ー）

▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）＝2位、▼52kg級 北村善之（東洋大）＝2位、▼57kg
級 寺尾将幸（中大）＝二失、▼62kg級 谷山祐治（日体大）＝2位、▼68kg級 天谷満
博（早大）＝3位、▼74kg級 柴田寛（東農大）＝三失、▼82kg級 花田眞秀（国士舘大）
＝2位、▼90kg級 小菅裕司（日体大）＝二失、▼100kg級 下川宏行（日体大）＝2位、
▼130kg級 滝沢慎（日大）＝2位

◇エスポアール・イラン国際大会＝男子グレコローマン（9月7～8日、イラン・アン

デーメシク）

▼48kg級 中村吉元（日体大）＝優勝、▼52kg級 石崎真輝（日体大）＝6位、▼57kg
級 村上和隆（日体大）＝3位、▼62kg級 大西一也（山梨学院大）＝6位、▼68kg級 植
村洋二（日体大）＝3位、▼74kg級 吉田英司（国士舘大）＝3位、▼82kg級 三原大典
（日体大）＝2位、▼90kg級 佐藤亘（国士舘大）＝2位、▼100kg級 篠崎正二（日体
大）＝2位、▼130kg級 坂下昇（専大）＝2位

◇世界選手権＝男子グレコローマン（9月8～11日、フィンランド・タンペレ）

▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）＝9位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）＝10位、▼57kg
級 西島隆（警視庁）＝二失、▼62kg級 栗本秀樹（日泉化学）＝二失、▼68kg級 三宅
靖志（東海商船）＝7位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝二失、▼82kg級 渡部秀隆（自
衛隊）＝二失、▼90kg級 木下英規（自衛隊）＝10位、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）
＝三失、▼130kg級 浜上稔（茨城・好間高教）＝二失

◇アジア大会（10月4～10日、広島・東広島運動公園体育館）

《男子フリースタイル》▼48kg級 佐伯豊（日大）＝4位、▼52kg級 笹山秀雄（自衛
隊）＝6位、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）＝6位、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）
＝優勝、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）＝2位、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ
浦高教）＝2位、▼82kg級 横山秀和（日体大助）＝3位、▼90kg級 伊藤敦（京都府体
協）＝2位、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）＝4位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝
4位

《男子グレコローマン》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）＝二失、▼52kg級 中森昭平

(広島県立総合体育館) = 5位、▼57kg級 西見健吉(自衛隊) = 二失、▼62kg級 西口茂樹(拓大職) = 4位、▼68kg級 森巧(自衛隊) = 3位、▼74kg級 片山貴光(日体大) = 3位、▼82kg級 向井孝博(ヤマサン) = 5位、▼90kg級 森山泰年(自衛隊) = 3位、▼100kg級 野々村孝(香川・多度津工高教) = 3位、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 2位

◇ワールドカップ=男子グレコローマン(10月29~30日、ハンガリー・ブダペスト)

4位(2勝3敗)

1回戦 日本●[5-5] ○米国

2回戦 日本●[3-7] ○ハンガリー

3回戦 日本●[1-9] ○ウクライナ

4回戦 日本○[6-4] ●エジプト

5回戦 日本○[6-4] ●中国

《個人順位》▼48kg級 佐々木昌常(自衛隊) = 2位、▼52kg級 内浩二(自衛隊) = 優勝、▼57kg級 村上和隆(日体大) = 3位、▼62kg級 菅生洋樹(日体大) = 5位、▼68kg級 森巧(自衛隊) = 2位、▼74kg級 片山貴光(自衛隊) = 3位、▼82kg級 高木章夫(日体大) = 5位、▼90kg級 馬淵賢司(日体大) = 7位、▼100kg級 = 派遣なし、▼130kg級 鈴木賢一(読売千葉広告社) = 5位

国内

◇全国高校選抜大会(3月27~29日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 北海道・岩見沢農(初)、[2] 秋田・秋田商、[3] 茨城・霞ヶ浦、栃木・足利工大付

《個人戦優勝者》▼46kg級 上林浩二(岐阜・岐阜工)、▼50kg級 森田武士(栃木・足利工大付)、▼54kg級 井上謙二(京都・網野)、▼58kg級 岡田英雅(群馬・関東学園)、▼63kg級 水井雅史(東京・京北)、▼68kg級 大橋理秀(大阪・吹田)、▼74kg級 土居克也(茨城・霞ヶ浦)、▼115kg級 今村雄介(群馬・関東学園)

◇全日本社会人選手権(4月30~5月1日、埼玉・東洋大)

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユニマツトコーポレーション、▼クラブ 警視庁クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐藤謙二(福島・田島中教)、▼52kg級 清

水一成（山形ク）、▼57kg級 奥屋敷賢彦（自衛隊）、▼62kg級 中原卓哉（自衛隊）、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）、▼74kg級 外屋敷剛（自衛隊）、▼82kg級 原喜彦（アトラス・ク）、▼90kg級 エリック・ドウス（コスモ・スペース）、▼100kg級 鈴木文雄（秋田市役所）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 森下浩（和歌山ク）、▼52kg級 下村保伸（福島・田島高教）、▼57kg級 藤本雅志（徳島県協会）、▼62kg級 林雄一（アトラス・ク）、▼68kg級 木村好男（警視庁）、▼74kg級 今村浩之（クリナップ）、▼82kg級 小林希（香川ク）、▼90kg級 木下英規（自衛隊）、▼100kg級 梅田誠幸（アイシン精機）、▼130kg級 浜上稔（福島県協会）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（5月3～5日、群馬・館林市城沼総合体育館）

《男子エスポアール・フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 北村善之（東洋大）、▼57kg級 寺尾将幸（中大）、▼62kg級 谷山祐治（日体大）、▼68kg級 天谷満博（早大）、▼74kg級 柴田寛（東農大）、▼82kg級 花田眞秀（国士舘大）、▼90kg級 小菅裕司（日体大）、▼100kg級 下川宏行（日体大）、▼130kg級 滝沢慎（日大）

《男子エスポアール・グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 石崎真輝（日体大）、▼57kg級 村上和隆（日体大）、▼62kg級 大西一也（山梨学院大）、▼68kg級 植村洋二（日体大）、▼74kg級 吉田英司（国士舘大）、▼82kg級 三原大典（日体大）、▼90kg級 佐藤亘（国士舘大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 坂下昇（専大）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼46kg級 新保道男（茨城・霞ヶ浦高）、▼50kg級 森田武士（栃木・足利工大付高）、▼54kg級 福田雅彦（神奈川・日大藤沢高）、▼58kg級 鎌田卓也（東農大）、▼63kg級 水井雅史（東京・京北高）、▼68kg級 市川敏之（山梨学院大）、▼74kg級 野寺隆志（東京・京北高）、▼81kg級 土居克也（茨城・霞ヶ浦高）、▼88kg級 今村雄介（群馬・関東学園高）、▼115kg級 早坂雅和（山形・山形商高）

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼46kg級 中尾新二（奈良・添上高）、▼50kg級 吉田誠治（神奈川・向上高）、▼54kg級 豊田雅俊（徳島・穴吹高）、▼58kg級 竹花良二（長野・上田西高）、▼63kg級 飯塚幸宏（静岡・沼津学園高）、▼68kg級 倉本忠（日体大）、▼74kg級 中山智治（岡山・倉敷高）、▼81kg級 小椋健（福島・田島高）、▼88kg級 野口雅史（静岡・沼津学園高）、▼115kg級 岩崎智郁（徳山大）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼40kg級 木下泰行（大阪・吹田市民教室）、▼43kg級 鈴木猛雄（静岡・沼津学園高）、▼47kg級 千代延寿（神奈川・大岡高）、▼51kg級 船越聡（栃木・足利工大付高）、▼55kg級 森岡寛至（大阪・吹田市民教室）、▼60kg級 笥田幸宏（茨城・霞ヶ浦高）、▼65kg級 今村吉亜（群馬・関東学園大付高）、▼70kg級 兵藤健二（群馬・西邑楽高）、▼76kg級 浜中和宏（青森・光星学院高）、▼83kg級 野呂竜昇（三重・四日市四郷高）、▼95kg級 佐藤丈治（東京・京北高）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼40kg級 鴻巣伸彦（岐阜・マيسポーツ）、▼43kg級 水口貴之（岐阜・マيسポーツ）、▼47kg級 裕英博（大阪・近大付高）、▼51kg級 高橋良太（群馬・大泉高）、▼55kg級 平隆士（大阪・近大付高）、▼60kg級 山口直樹（三重・四日市四郷高）、▼65kg級=出場なし、▼70kg級 小野瀬裕治（茨城・霞ヶ浦高）、▼76kg級 太田竜次（大阪・近大付高）、▼83kg級 岡田直樹（大阪・同志社香里高）、▼95kg級 矢野通（東京・京北高）

《女子優勝者》▼40kg級 渡辺明子（岡山県協会）、▼44kg級 清水美里（マيسポーツ）、▼48kg級 待谷ももこ（京都・網野高）、▼52kg級 中本裕子（日体パンサー図）、▼56kg級 福田恵美（群馬・関東学園高）、▼60kg級 向井裕子（E I K Oクラブ）、▼65kg級 浜口京子（代々木クラブ）、▼70kg級 斉藤麻佑子（東京・安部学院高）

◇東日本学生リーグ戦（5月19・20・28・29日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（16年連続18度目）、[2] 山梨学院大、[3] 日大、[4] 東洋大、[5] 国士大、[6] 大東大、[7] 専大、[8] 早大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月28～29日、大阪・大阪府立体育会館第2競技場）

《順位》[1] 徳山大（2季連続8度目）、[2] 福岡大、[3] 近大、[4] 南九州大、[5] 桃山学院大、[6] 同志社大

◇全日本女子選手権（5月29日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）、▼47kg級 上林美穂（東洋大）、▼50kg級 山本美憂（日体パンサーズ）、▼53kg級 川崎明美（自衛隊）、▼57kg級 三田寺由香（スポーツ東急）、▼61kg級 黒川真由美（自衛隊）、▼65kg級 浦野弥生（京樽）、▼70kg級 宮崎未樹子（住友海上火災）、▼75kg級 船越光子（ユニマツトコーポレーション）、▼75kg以上級=出場なし

◇東日本学生春季新人戦（6月15～18日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 長尾勇気（日体大）、▼52kg級 北林善之（東洋大）、▼57kg級 渡部博文（山梨学院大）、▼62kg級 杉田健吾（早大）、▼68kg級 山口幸信（山梨学院大）、▼74kg級 織山昭仁（日体大）、▼82kg級 高橋善孝（日大）、▼90kg級 河瀬渡（専大）、▼100kg級 小菅裕司（日体大）、▼130kg級 中沢直樹（山梨学院大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 桜井優史（群馬大）、▼52kg級 山中悟（日体大）、▼57kg級 小林武史（日体大）、▼62kg級 野名秀樹（国士舘大）、▼68kg級 植村洋二（日体大）、▼74kg級 宮本浩次（日体大）、▼82kg級 矢野倍達（専大）、▼90kg級 佐藤亘（国士舘大）、▼100kg級 篠崎正二（日体大）、▼130kg級 中沢直樹（山梨学院大）

◇世界選手権・アジア大会代表選考会（6月24～25日、東京・駒沢屋内球技場）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 和田貴広（国士大）、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 伊藤敦（京都府体協）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）、▼57kg級 西島隆（警視庁）、▼62kg級 西口茂樹（拓大職）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 向井孝博（ヤマサン）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）、▼130kg級 浜上稔（茨城・好間高教）

◇西日本学生新人戦（6月25～26日、大阪・）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 上西建至（近大）、▼52kg級 宮本幸二（福岡大）、▼57kg級 上田彰夫（近大）、▼62kg級 岡本信也（徳山大）、▼68kg級 池上親志（福岡大）、▼74kg級 中西康人（近大）、▼82kg級 水野輝基（徳山大）、▼90kg級 池部彰（福岡大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 上西建至（近大）、▼52kg級 宮本幸二（福岡大）、▼57kg級 竹村恭一（桃山学院大）、▼62kg級 岡本信也（徳山大）、▼68kg級 池上親志（福岡大）、▼74kg級 中西康人（近大）、▼82kg級 池辺彰（福岡大）、▼90kg級 井田啓治（徳山大）、▼130kg級 八木沢勝（南九州大）

◇全国中学生選手権（6月28～29日、茨城・茨城県立スポーツセンター）

▼35kg級 谷元浩司（大阪・佐井寺）、▼40kg級 松永共広（静岡・焼津）、▼43kg級 鴻巣伸彦（岐阜・松倉）、▼47kg級 足立竜一（愛知・尾西三）、▼51kg級 野口勝（鹿児島・鹿屋）、▼55kg級 小野田純（静岡・小川）、▼60kg級 高塚慎吾（大阪・吹田一）、▼65kg級 池田秀治（愛媛・久米）、▼70kg級 山口亮（愛媛・久米）、▼76kg級 吉田栄利（三重・一志）、▼83kg級 松田卓也（愛媛・久米）、▼95kg級 武尾雅樹（青森・三条）

◇世界選手権・アジア大会代表選考プレーオフ（7月9日、東京・スポーツ会館）

《男子フリースタイル両大会代表》▼48kg級 佐伯豊（日大）▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼68kg級 勝龍三郎（総合警備保障）、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼90kg級 伊藤敦（京都府体協）

《男子グレコローマン・アジア大会代表》▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 西口茂樹（拓大職）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼130kg級 鈴木賢一（読売千葉広告社）

《男子グレコローマン世界選手権代表》▼52kg級 内浩二（自衛隊）、▼57kg級 西島隆（警視庁）、▼62kg級 栗本秀樹（日泉化学）、▼68kg級 三宅靖志（東海商船）、▼90kg級 木下英規（自衛隊）、▼100kg級 山口孝二（自衛隊）、▼130kg級 浜上稔（茨城・好間高教）

◇インターハイ（8月2～5日、富山・滑川市総合体育センター）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（5年連続8度目）、[2] 栃木・足利工大付、[3] 秋田・秋田商、福岡・三井

《個人戦優勝者》▼46kg級 上林浩二（岐阜・岐阜工）、▼50kg級 久米貴幸（北海道・岩見沢農）、▼54kg級 井上謙二（京都・網野）、▼58kg級 竹花良二（長野・上田西）、▼63kg級 小椋啓介（北海道・岩見沢農）、▼68kg級 大橋理秀（大阪・吹田）、▼74kg級 土居克也（茨城・霞ヶ浦）、▼115kg級 吉田清太郎（秋田・秋田商）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月12～14日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼46kg級 村田知也（三重・松阪工）、▼50kg級 碓英博（大阪・近大付）、▼54kg級 豊田雅俊（徳島・穴吹）、▼58kg級 八代聡一郎（神奈川・日大藤沢）、▼63kg級 竹内博昭（三重・松阪工）、▼68kg級 宇都木伸久（茨城・土浦日大）、▼74kg級 中山智治（岡山・倉敷）、▼81kg級 平松大樹（愛知・星城）、▼87kg級 佐藤丈治（東京・京北）、▼115kg級 吉田清太郎（秋田・秋田商）

◇全日本学生選手権（8月26～29日、新潟・新潟市鳥屋野体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 佐藤公一（日体大）、▼57kg級 横瀬二郎（国士舘大）、▼62kg級 杉田健吾（早大）、▼68kg級 天谷満博（早大）、▼74kg級 小野瀬 哲也（山梨学院大）、▼82kg級 川合達夫（日体大）、▼90kg級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg級 吉田幸司（日体大）、▼130kg級 滝口徹（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 勝目力也（山梨学院大）、▼57kg級 村上和隆（日体大）、▼62kg級 菅生洋樹（日体大）、▼68kg級 永田克彦（日体大）、▼74kg級 横山雅信（日大）、▼82kg級 高木章夫（日体大）、▼90kg級 加藤英之（日体大）、▼100kg級 権瓶広光（専大）、▼130kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）

◇全日本学生王座決定戦（9月17～18日、東京・駒沢体育館）＝団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大（5年連続14度目）、[2] 日大、[3] 山梨学院大

◇西日本学生選手権（9月30日～10月2日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 平野健二（近大）、▼52kg級 小川完治（徳山大）、▼57kg級 西岡健（南九州大）、▼62kg級 東山晃三（福岡大）、▼68kg級 法花智伸（徳山大）、▼74kg級 小林寛和（徳山大）、▼82kg級 松池隆雄（近大）、▼90kg級 楠健二（徳山大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 山田靖治（徳山大）、▼57kg級 酒井徹治（福岡大）、▼62kg級 中野英樹（福岡大）、▼68kg級 法花智伸（徳山大）、▼74kg級 城島匡峰（福岡大）、▼82kg級 竹内一政（南九州大）、▼90kg級 楠健二（徳山大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

◇国民体育大会（10月30日～11月2日、愛知・常滑市民体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐伯豊（茨城・日大）、▼52kg級 佐藤公一（秋田・日体大）、▼57kg級 入江格（福島・平商高教）、▼62kg級 坪井勇（福島・四倉高教）、▼68kg級 小柴健二（群馬・新日本プロレス職）、▼74kg級 山方政人（福岡・日体大）、▼82kg級 角崎朋博（山形・東根工高教）、▼90kg級 川合達夫（群馬・日体大）、▼100kg級 浅沼俊幸（埼玉・自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元（三重・日体大）、▼52kg級 中森

昭平（広島・総合体育館）、▼57kg級 藤本雅志（徳島・池田高教）、▼62kg級 林雄一（新潟・県体協）、▼68kg級 木村好男（東京・警視庁）、▼74kg級 杉浦貴（愛知・守山自衛隊）、▼82kg級 小林希（群馬・館林高教）、▼90kg級 木下英規（埼玉・自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川・多度津工高教）、▼130kg級 浜上稔（福島・好間高教）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 新保道男（茨城・霞ヶ浦）、▼50kg級 森田武士（栃木・足利工大付）、▼54kg級 井上謙二（京都・網野）、▼58kg級 皆川達也（新潟・新潟工）、▼63kg級 石田亮一（長野・上田西）、▼68kg級 川鍋辰也（埼玉・埼玉栄）、▼74kg級 坂井敏行（岐阜・岐阜工）、▼81kg級 土居克也（茨城・霞ヶ浦）、▼88kg級 今村雄介（群馬・関東学園）、▼115kg級 吉田清太郎（秋田・秋田商）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 村田知也（三重・松阪工）、▼50kg級 吉田誠治（神奈川・向上）、▼54kg級 豊田雅俊（徳島・穴吹）、▼58kg級 竹花良二（長野・上田西）、▼63kg級 葭田隆夫（福岡・北九州）、▼68kg級 大井将憲（長野・北佐久農）、▼74kg級 中山智治（岡山・倉敷）、▼81kg級 平松大樹（愛知・星城）、▼88kg級 野口雅史（静岡・沼津学園）、▼115kg級 鈴木克彰（東京・京北）

◇全日本大学グレコローマン選手権（10月14～15日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 田村栄司（日大）、▼57kg級 村上和隆（日体大）、▼62kg級 大西一也（山梨学院大）、▼68kg級 永田克彦（日体大）、▼74kg級 有賀浩樹（日体大）、▼82kg級 高木章夫（日体大）、▼90kg級 秋山秀輝（東洋大）、▼100kg級 加藤英之（日体大）、▼130kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（6年連続6度目）、[2] 山梨学院大、[3] 日大

◇全日本大学選手権（11月12～13日、福島・田島中）

《優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 佐藤公一（日体大）、▼57kg級 星政宏（日体大）、▼62kg級 谷山祐治（日体大）、▼68kg級 天谷満博（早大）、▼74kg級 横山武典（国士舘大）、▼82kg級 川合達夫（日体大）、▼90kg級 花田眞秀（国士舘大）、▼100kg級 菅原文太（大東大）、▼130kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（3年連続16度目）、[2] 日大、[3] 国士舘大

◇全国社会人オープン選手権（11月12～13日、東京・スポーツ会館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 火縄公男（自衛隊）、▼52kg級 飯田泰次（国際証券）、▼57kg級 石嶋勇次（総合警備保障）、▼62kg級 奥屋敷賢彦（自衛隊）、▼68kg級

級 泉保久 (川内自衛隊)、▼74kg 級 今村浩之 (クリナップ)、▼82kg 級 岸本茂範 (宮城クラブ)、▼90kg 級 エリック・ドウス (コスモ・スペース)、▼100kg 級 小玉康二 (高知・高知東高教)、▼130kg 級 奥博文 (川内自衛隊)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 玉川正人 (自衛隊)、▼52kg 級 井口撰 (自衛隊)、▼57kg 級 桜井正人 (自衛隊)、▼62kg 級 瀬川博道 (自衛隊)、▼68kg 級 田橋治 (島原市協会)、▼74kg 級 森崎崇弘 (北熊本自衛隊)、▼82kg 級 宮沢誠 (静岡クラブ)、▼90kg 級 岩渕利則 (警視庁)、▼100kg 級 神崎源吾 (警視庁)、▼130kg 級 奥博文 (川内自衛隊)

◇東日本学生秋季新人戦 (11月25～27日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 豊島孝尚 (日体大)、▼52kg 級 草野孝 (山梨学院大)、▼57kg 級 山本英典 (日体大)、▼62kg 級 山口純 (日体大)、▼68kg 級 斎藤柔 (日大)、▼74kg 級 柴田寛 (東農大)、▼82kg 級 花田真秀 (国士舘大)、▼90kg 級 矢野倍達 (専大)、▼100kg 級 梁田紀幸 (東洋大)、▼130kg 級 小菅裕司 (日体大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 安原隆 (国士舘大)、▼52kg 級 市口信治 (日大)、▼57kg 級 弓矢完二 (日体大)、▼62kg 級 大西一也 (山梨学院大)、▼68kg 級 斎藤柔 (日大)、▼74kg 級 織山昭仁 (日体大)、▼82kg 級 金沢紀行 (拓大)、▼90kg 級 小菅裕司 (日体大)、▼100kg 級 多田尾秀樹 (日体大)、▼130kg 級 滝沢慎 (日大)

◇西日本学生秋季リーグ戦 (11月22～23日、大阪・大阪府立体育会館第2競技場)

《順位》[1] 福岡大 (3季ぶり 16度目)、[2] 徳山大、[3] 南九州大、[4] 近大、[5] 桃山学院大、[6] 同志社大

◇全日本女子オープン選手権 (11月27日、兵庫・グリーンアリーナ神戸)

《優勝者》▼44kg 級 吉村祥子 (スポーツ東急)、▼47kg 級 鐘秀娥 (中国)、▼50kg 級 遠藤美子 (東洋大職)、▼53kg 級 川崎明美 (自衛隊)、▼57kg 級 三田寺由香 (スポーツ東急)、▼61kg 級 宮崎未樹子 (住友海上火災保険)、▼65kg 級 浦野弥生 (京樽)、▼70kg 級 加藤ミエ (リプレ中京女大)、▼75kg 級 船越光子 (ユニマツト)、▼75kg 以上級=出場なし

◇全日本選手権予選会 (12月3～4日、東京・多摩スポーツセンター)

※出場資格のない選手の予選会で、各階級とも上位4選手が出場資格獲得 (成績省略)

◇全日本選手権 (12月21～23日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）、▼57kg級 入江格（福島・平商高教）、▼62kg級 和田貴広（国士舘大助）、▼68kg級 小柴健二（新日本プロレス職）、▼74kg級 太田拓弥（茨城・霞ヶ浦高教）、▼82kg級 横山秀和（日体大助）、▼90kg級 エリック・ドウス（コスモ・スペース）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大助）、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 林雄一（新潟県体協）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 片山貴光（自衛隊）、▼82kg級 佐々木秀幸（香川・飯山中教）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川・多度津工高教）、▼130kg級 浜上稔（福島・好間高教）

◇女子東西対抗戦（12月23日、東京・駒沢体育館）

東軍○ [3 - 2] ●西軍